

資料 3

(3) 経営ビジョンの見直しの 必要性について

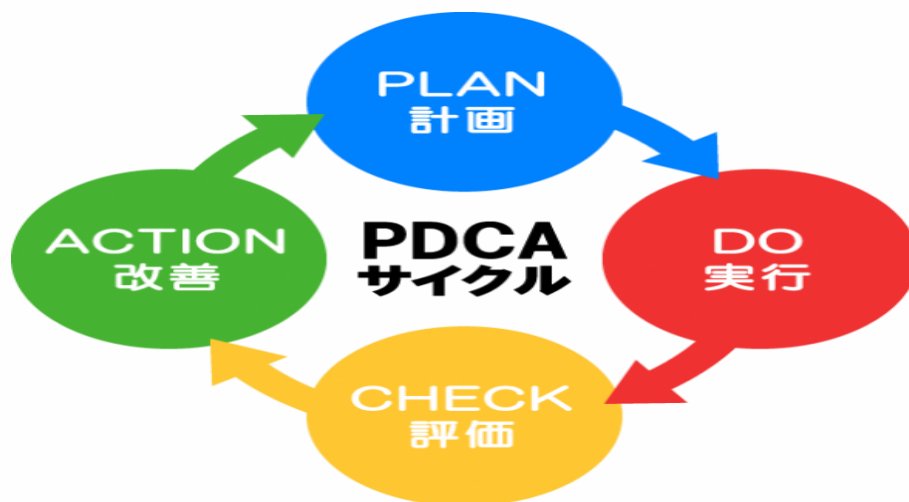
1 見直しの背景

総務省通知（「経営戦略の改定推進について」R4.1.25）

- ・ 策定した経営戦略に沿った取組等の状況を踏まえつつ、PDCAサイクルを通じて質を高めていくため、**3年から5年以内の見直しを行うことが重要**

神奈川県流域下水道事業経営ビジョン（R3.3策定）

- ・ 経営ビジョンの推進にあたり、毎年度、進捗状況等のモニタリングを実施するとともに、**中間年（令和7年度）**、**最終年（令和12年度）**に目標を設定した主要施策について、**達成度合いを検証し、必要に応じて柔軟に見直し**を行う。



2 基本理念等

現行の経営ビジョンで示した内容のうち、
「果たしてきた役割」や**「基本理念」**などは、普遍的な性質のものであり、流域下水道事業を取り巻く現状に照らして、現行の内容のままで十分に意義があり、**見直しの必要性は認められない。**

章	項目	現行経営ビジョンの内容
1	策定の趣旨 、計画期間	・ 中期ビジョンの改定、10年間（令和3～12年度）
2	果たしてきた役割	・ 相模川・酒匂川流域下水道の経緯・現状説明、維持管理体制 ・ ①公共用水域の水質改善、②生活環境の改善、③低廉な処理費用 ④地球環境への貢献、⑤水再生センター、⑥休みないサービス
3	基本理念	「快適なくらしを支え 健全な水環境を未来につなぎ 経営の安定を図る」

3 主要施策、収支の見通し等

「事業の**課題**」「**主要施策**」「**収支の見通し**」等については、

- ・ 事故の未然防止に向けた下水管の健全性の確保
- ・ 脱炭素社会実現や資源の有効利用に向けた取組み
- ・ 下水道施設の管理・更新の更なる効率化

に関する新たな社会的要請や物価上昇など**経営環境の大きな変化**を踏まえ、**経営ビジョンを見直す必要がある。**

章	項目	現行経営ビジョンの内容
4	流域下水道事業の 課題	①施設の老朽化の進行、②大規模な自然災害の発生、 ③更なる温室効果ガスの排出抑制
5	主要施策	①効果的な老朽化対策（改築更新、維持管理の効率化、汚泥の集約処理） ②災害対策の強化（耐震化・耐水化、処理場ネットワーク化（寒川平塚幹線）、危機管理体制） ③環境保全の推進（水環境の保全（箱根小田原幹線）、地球温暖化対策）
6	収支の見通し	全国共通の経営戦略として作成が必要な10年間の収支計画（投資・財政計画） 相模川流域：（支出）建設改良費26%増、維持管理費横ばい、（収入）市町負担金2%増 酒匂川流域：（支出）建設改良費61%増、維持管理費13%増、（収入）市町負担金18%増
7	持続可能な事業運営に向けた取組	①財源（交付金の確保、経費の平準化、経費負担の適正化） ②人材（職員の確保育成、民間活用と執行体制の効率化） ③施設（広域化・共同化） ④検証と見直し（進捗状況のモニタリング、達成度合いの検証）